

# 平成28年 埼玉県校友会 新年会

埼玉県校友会の新年会は平成28年2月7日（日）に、さいたま新都心のホテル・プリランテ武蔵野において開催された。

## ◆学術講演会

新年会に先立ち、恒例の「学術講演会」が丸山進一郎学術部長（66回）の司会のもと、午後3時から講師に原 節宏附属病院准教授（75回）を迎え「顎関節症のとらえ方・接し方」との演題で行われた。

原先生の講演は、顎関節症の治療は従前の咬合治療や外科の治療よりも現在は筋膜マッサージ等の運動療法（ストレッチ）が効果を上げている事実より、顎関節症の診断・治療のパラダイムシフトについて解説していただいた。

さらに顎関節症は様々な原因で生じる生物・心理・社会的疾病症候群であったと結論された。これに対し、種々の原因に対する処置、即ち、理学療法・投薬療法・心理療法（認知行動療法）等について、附属病院顎関節症診療センター長の立場から具体的にご教示していただいた。

講演後は活発な質疑応答が行われ、終わりに黒川信良副会長（63回）より謝辞が述べられた。その後、会場を移し、午後5時より「新年会」が開催された。

## ◆新年会

新年会は、蓮見和久福祉厚生副部長（76回）の司会のもと、初めに校歌斉唱が行われた。次いで重竹淳一副会長（68回）の開会の辞に続き、小谷田 宏



講演される 原 節宏 准教授

会長（61回）より主催者挨拶が述べられた。

ここで、小谷田会長は「昨年7月の会長就任後の優先課題として、求心力の回復・財政の健全化・人材の有効活用を掲げてきた。特に最優先したいのが求心力の回復で、県校友会は親睦団体のみでなく、親睦を越えた信頼の絆で結ばれた団結力の団体であるべきである。そして、他校同窓会に伍して常に県の中心的な存在であるべきで、価値ある日歯大ブランドを活かし、県校友会の力のベクトルを最大化することが大切である」との見解を強調された。

続いて来賓より、近藤勝洪校友会会長、島田 篤埼玉県歯科医師会会長、附属病院副院長で内科学教授の三ッ林裕巳衆議院議員、県歯科医師会会員で前総務副大臣兼内閣府副大臣の関口昌一参議院議員、校友会本部副会長の西村まさみ参議院議員（78回）から各々祝辞を賜った。



小谷田県校友会会長



来賓の近藤会長と西村議員を囲んで

この中では、特に昨年12月に堀 憲郎先生（68回）が次期日本歯科医師会会長に内定したことで、丸山県校友会学術部長が本年2月3日の日本学校歯科医学会の予備選挙に当選され、3月23日より新たに日本学校歯科医学会会長となられることが報告された。

即ち、日本歯科医師会（堀先生）、日本歯科医師連盟（高橋先生）、日本歯科医学会（住友先生）、日本学校歯科医学会（丸山先生）と歯科界の大きな4つの団体の会長がすべて本学校友で占められることになる。ここで当日出席されていた丸山県校友会学術部長からも日学歯会長就任内定のご報告とご挨拶をいただいた。

引き続き、平成27年秋の叙勲において旭日双光章を受章された、社会保険診療報酬支払基金埼玉支部審査委員会副委員長で元埼玉歯理事・元県校友会会長の谷野日出人先生（58回）の乾杯のご発声にて祝宴が開宴された。

本年はアトラクションとしてシャンソン・グルー

プ、ポアゾンの早坂華織さんのボーカルで美しいシャンソンの歌声が披露された。また、今年も餅つきが行われ、来賓の先生方も参加され楽しまれた。つきたての餅は食事として、またお土産としても活用され、会員一同に大変好評であった。

参加された先生方は各人テーブル毎、あるいはテーブルを超えての昔話や世間話にしばしの間、華を咲かせていた。そして、宴もたけなわではあったが、手締めが行われ、本年からの取り組みである本学寮歌が役員を中心に肩を組み、全員で心をつにして斉唱された。

最後に、今年も福祉厚生部役員の伴 智光先生（78回）からエールがきられ、終わりに田中東穂副会長（61回）の閉会の辞により、午後7時に平成28年の新年会は、名残惜しくも盛況のうちにお開きとなった。

（松崎俊哉・76回記）